

# サトウヤシの利用からみる森林の持続的管理可能性

## —タイ北部ナン県における調査研究について—

平成 27 年入学  
派遣先国：タイ  
守沖 彩

キーワード：タイ北部ナン県、地元住民、森林、サトウヤシ、持続的利用

### はじめに

タイでは、1988 年に南部で洪水による大規模な被害が生じたため、水源涵養機能をもつ森林の重要性が再認識され、国全体で森林伐採をやめ、森林保全を行っていかうという機運が盛り上がりました。この際、特にタイ北部は多くの人口が集中するタイ中心部の水源地として機能する豊かな森林を有しているため、多くの保護区や国立公園設置の対象となりました。2006 年にはタイの国立公園は 91 ありましたが、この実に三分の一以上が 1990 年以降に設置されたことから、国による森林保全策が急速に推し進められたことがうかがえます。しかし、こうしてできた保護区や国立公園の管理は非常に中央集権的なものであり、保護区として囲い込まれる以前に森林を利用してきた地元住民の生活を考慮したものであったかについては大いに疑問が残ります。

### 地元住民の暮らしと森林利用の実態を知る必要性

上記のような国レベルの視点の問題点は、実際に森林を利用して生計を立てている地元住民の視点が欠如していることです。そこで本研究では、地元住民の森林利用と森林の生態との関係性を明らかにするため、森林内に自生するサトウヤシ (図 a・b) を研究対象としました。サトウヤシはタイ全土に広く分布しているヤシ科の植物で、その種子から採られる胚珠 (種子内部の柔らかい部分) は、甘いシロップ漬けにされアイスクリームのトッピングとして食されるなど、タイ全土で利用されています (図 c・d)。タイ北部はこの胚珠の主な生産地であり、地元住民は森林でサトウヤシの胚珠を採集し、市場で売買することで収入を得ています。本研究では、こうした地元住民のサトウヤシの利用と森林の生態を調査しその実態を理解することで、地域住民の暮らしの向上と森林保全に役立てることを目的としています。

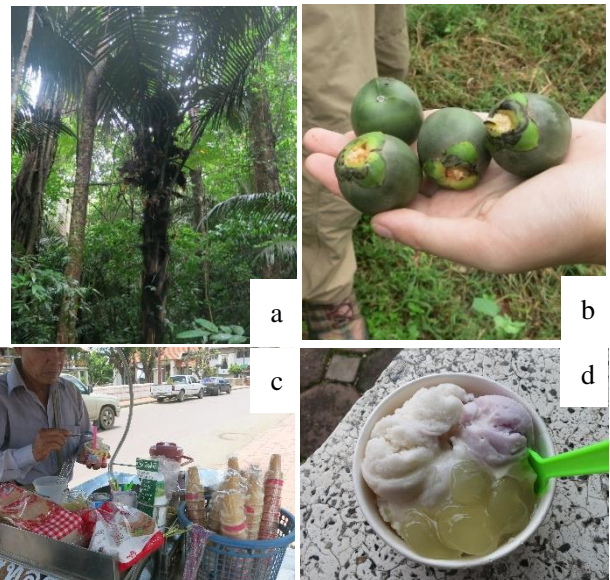


図 a) 森林内のサトウヤシ；図 b) サトウヤシの果実；  
図 c) 街中のアイスクリーム売りの屋台；  
図 d) サトウヤシの胚珠の入ったアイスクリーム

## タイ北部ナーン県の村における、地元住民の生活と森林の利用状況の視察

今回のフィールドワークは、調査地の村を訪問し地元住民が実際にどのように森林を利用しているのかを把握することを主な目的としました。調査地はタイ北部ナーン県ターワンパー郡に属する山地民（ヤオ）の村です。ナーン県まではバンコクから飛行機で行くと2時間ほどかかります。そこからさらに車で数時間北上したところに、目的地の村はあります。タイ北部には少数民族が多く居住しており、特にナーン県西部にはヤオと呼ばれる少数民族の人々が暮らしています。地元住民の祖先は20世紀初頭に中国から移住してきた移民で、古くはタイ、ミャンマー、ラオスにまたがる黄金の三角地帯で、ケシ栽培を営んでいました。現在は、地元住民は付近の森林を開拓してトウモロコシやキャッサバや陸稲の常畑、あるいはライチの果樹園やコーヒー農園を作ってこうした農作物を栽培しており（図 e）、これらが地元住民の主な収入源として機能しているようでした。しかし、乾季には森林内に自生しているサトウヤシの胚珠を採集し、売買することで副次的な収入を得ていました。地元住民はこうしたサトウヤシの採集に関して、森林を村内の世帯ごとに分割し保有地を明確にすることで、各自が保有地のサトウヤシに関してのみ採集を行うなど、独自のルールを設定し持続的にサトウヤシの採取を行っていました（図 f・g）。

フィールドワークに行く以前は、文献などからタイ北部におけるサトウヤシの利用に関する情報を得ていましたが、こうした文献は古いものが多く、現在もそういった活動が行われているかどうかは不明瞭でした。しかし今回のフィールドワークで、自分で実際に調査地の村を訪問し、地元住民に話を聞いたり森林に入ってサトウヤシや周囲の植生を観察したりすることで、現在の地元住民の暮らしの様子およびサトウヤシの利用状況を把握することができました。

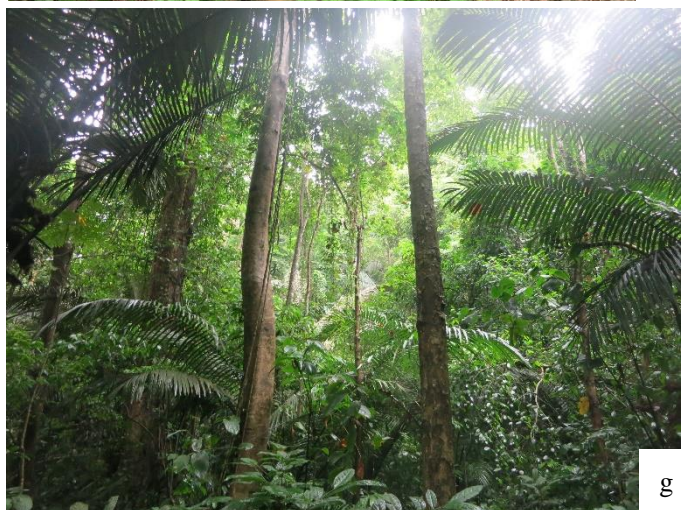


図 e) 森林は開拓され、様々な土地利用がみられる；  
図 f) トウモロコシ畑を抜けると、サトウヤシが自生する森林に行きつく；  
図 g) 森林には多様な植生がみられる

## 今後の研究の方向性と現地語習得の必要性

今後は、今回のフィールドワークで得られた知見をもとに研究計画を練り直し、再び調査地の村を訪問したいと考えています。サトウヤシは果実をつけた後すぐに枯れてしまう性質をもつので、森林内での繁殖、種子散布といった更新状態がどのようになっているのかを、森林調査から明らかにしたいと考えています。この調査から得られるデータと地元住民のサトウヤシ利用の方法を合わせて考察することで、地元住民がサトウヤシの利用を通じて森林に与える影響を評価することができるのではないかと考えています。今回のフィールドワークの反省点は、言語についてです。タイ語を聞きとることも話すことも十分にできないまま現地に行ったため、地元の方が話してくださる内容はすべて一緒に村に行ってくださいの方に翻訳していただいていた。今後はタイ語の勉強に励み、自分で生の情報収集ができるように努力したいと考えています。